

—第17回 デジタルアーカイブ研究会—

日 時 2021年11月23日(火・祝) 15:00~17:12

開催方法 オンライン (Zoom を使用します)

コーディネーター: 井上 透、林 知代

プログラム

※発表時間は10分、質疑応答は2分です。

1. 権利処理の新たな展開としての肖像権ガイドラインの意義と課題 (15:00~15:12)
吉川 晃 (日本デジタル・アーキビスト資格認定機構)
坂井 知志 (日本デジタル・アーキビスト資格認定機構)
2. 高等教育におけるオンライン教育実態基礎調査と課題
—高等教育オンライン教育の現状と課題— (15:12~15:24)
井上 透 (岐阜女子大学)
坂井 知志 (日本デジタル・アーキビスト資格認定機構)
吉川 晃 (国士舘大学)
伊藤 憲 (株式会社日経 BP コンサルティング)
3. 図書館司書課程におけるデジタルアーカイブの教材活用について
~ジャパンスーチの事例~ (15:24~15:36)
東野 善男 (富山短期大学)
4. 教師、保育士の有毒植物への認知を目的とした地域資料データベース化 (15:36~15:48)
田港 さくら (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
5. 現代美術作家のアトリエデジタルアーカイブ化に向けた取り組み
—「日比野克彦を保存する」プロジェクトを通して (15:48~16:00)
田口 智子 (東京藝術大学 芸術資源保存修復研究センター)
6. ソロモン諸島国サンタ・イザベル島のデジタルアーカイブ
JICA 海外協力隊でのボランティア活動経験における2年間の記録 (16:00~16:12)
服部 蒔子 (岐阜女子大学大学院 通信教育課程、元 JICA 海外協力隊員(2017年4次隊))
7. 地域行事の積極的な伝承を目指すデジタルコンテンツの開発
~「古堅のミーミンメー」のデジタルアーカイブ化を通して~ (16:12~16:24)
新里 香乃 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
8. 沖縄の年中行事の継承課題を考える
~家族間継承の1方法から~ (16:24~16:36)
伊佐 初子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
9. 臨済宗の寺社と文化財デジタルアーカイブの構成についての研究
~臨済宗天龍寺派デジタルアーカイブを中心に~ (16:36~16:48)
荒木 久貴 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
10. アーカイブズとしての国立能楽堂所蔵資料群に関する一考察
—デジタルアーカイブ構築に向けて— (16:48~17:00)
鈴木 直子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
11. 『萬根本丸本目録』と地域アーカイブ
—信州川路地域を対象として— (17:00~17:12)
木村 涼 (岐阜女子大学)

第 17 回デジタルアーカイブ研究会 発表概要

1.	<p>権利処理の新たな展開としての肖像権ガイドラインの意義と課題 (15:00~15:12)</p> <p style="text-align: center;">吉川 晃 (日本デジタル・アーキビスト資格認定機構) 坂井 知志 (日本デジタル・アーキビスト資格認定機構)</p> <p>2017年5月にデジタルアーカイブ学会が発足して様々な議論が積み重ねられてきたが、権利処理の分野において、2021年4月明確な指標が示された。それは法制度部会が公開した「デジタルアーカイブ学会肖像権ガイドラインとその解説」である。</p> <p>従来、権利処理については著作権を中心に議論や研究が進められていたが、写真などの肖像が含まれる資料の扱いが現場では大きなハードルとなっていた。それに学会として応えた意義は大きい。今後その成果を大きくするためには更なる議論が深められなければならない。そこで権利処理の中心的な課題であった著作権に関する経緯を概観し、その後、今回の肖像権ガイドラインの意義と課題について述べる。</p>
2.	<p>高等教育におけるオンライン教育実態基礎調査と課題 (15:12~15:24)</p> <p>—高等教育オンライン教育の現状と課題—</p> <p style="text-align: center;">井上 透 (岐阜女子大学) 坂井 知志 (日本デジタル・アーキビスト資格認定機構) 吉川 晃 (国士舘大学) 伊藤 憲 (株式会社日経 BP コンサルティング)</p> <p>新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、2020年度より全国の大学・短大・高等専門学校ではオンライン教育（授業）に急遽取り組まざるを得なかった。しかし、その取り組みの実態について情報は乏しく、さらに大学・短大・高等専門学校の教育実態は多様であり、教育現場における成果や更なる発展のための課題が把握されているとは言い難い。そこで、(株)日経 BP コンサルティングが実施した「高等教育におけるオンライン教育実態基礎調査」に、特定非営利活動法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構が協力し、調査によって得られた基礎的データを分析することにより、大学・短大・高等専門学校のオンライン教育（授業）の取り組み状況を可視化することで実態を把握し、今後のオンライン教育推進のための課題と展望を明らかにした。</p>
3.	<p>図書館司書課程におけるデジタルアーカイブの教材活用について (15:24~15:36)</p> <p>～ジャパンサーチの事例～</p> <p style="text-align: right;">東野 善男 (富山短期大学)</p> <p>本研究では、図書館司書課程での履修者がジャパンサーチの演習を通して、どのような点に着目したかを明らかにすることを目的とする。図書館司書課程においても、デジタルコンテンツの教材化の事例を積み上げることにより、デジタルコンテンツ活用の際に、考慮しなければならない課題も見えてくる。今後は、科目間を連環するマップを作成し、科目毎に適した教材を検討していく必要がある。</p>
4.	<p>教師、保育士の有毒植物への認知を目的とした地域資料データベース化 (15:36~15:48)</p> <p style="text-align: center;">田港 さくら (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>先行研究から保育士・幼稚園教諭が園外保育を行う際の有毒植物に関する認知不足が明らかになっている。そこで本研究は、実際に那覇市内の5つの公園内の有毒植物について調査し、園外保育の安全な実施や園内研修において役立つ有毒植物の情報を収集した。収集した情報（植物名、植物の画像、有毒性、症状、処置法）は、本学の地域資料データベースに追加登録を行った。今回はその現地調査とデータベース化について報告する。</p>
5.	<p>現代美術作家のアトリエデジタルアーカイブ化に向けた取り組み (15:48~16:00)</p> <p>—「日比野克彦を保存する」プロジェクトを通して—</p> <p style="text-align: center;">田口 智子 (東京藝術大学 芸術資源保存修復研究センター)</p> <p>東京藝術大学 芸術資源保存修復研究センターでは、マンションの建て替えによって失われる現代美術作家・日比野克彦氏のアトリエを包括的に保存するプロジェクトを実施している。本発表では、段ボールを素材とした作品から、地域でのアートプロジェクトまで、日比野氏の多彩な作品が生み出された場であるアトリエのデジタルアーカイブ化に向けた取り組みや、プロジェクトを通じて浮き彫りとなった芸術作品の保存における様々な課題についても報告する。</p>
6.	<p>ソロモン諸島国サンタ・イザベル島のデジタルアーカイブ (16:00~16:12)</p> <p>JICA 海外協力隊でのボランティア活動経験における2年間の記録</p> <p style="text-align: center;">服部 蒔子 (岐阜女子大学大学院 通信教育課程、元 JICA 海外協力隊員 (2017年4次隊))</p> <p>2018年から2年間、JICA 青年海外協力隊員としてソロモン諸島国のサンタ・イザベル島に派遣され、現地の人々とともに生活し、読書推進活動を行った。その実体験の中で記録した膨大な写真や動画等をデジタル・アーカイブにする機会を得て、データ整理とコンテンツ構成の見通しがついたのでその中間報告として発表させていただきたい。</p>

7.	<p>地域行事の積極的な伝承を目指すデジタルコンテンツの開発 ～「古堅のミーミンメー」のデジタルアーカイブ化を通して～ (16:12～16:24) 新里 香乃 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>本研究では、後世への伝承が懸念されている南城市大里字古堅で行われている「ミーミンメー」という伝統行事を取り上げる。参加経験がある筆者が、出身地の伝統的な行事への興味喚起と継承の一助となるデジタルアーカイブについて検討し、地域に還元すべく取り組んでいる。教材作成や学ぶ機会の検討のほか、関係者からの聞き取りと既存資料等の整理を進め、これらの資料を基にしたデジタルコンテンツの作成と公民館での閲覧利用を目指す。</p>
8.	<p>沖縄の年中行事の継承課題を考える ～家族間継承の一方法から～ (16:24～16:36) 伊佐 初子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>地域や家庭で当たり前のように行われていた沖縄の年中行事も、近年では社会や生活の変化とともに、参加や見聞の機会が減少してきている。沖縄県が行った実態調査では、「継承していきたい」と考える人が多かったが、実際は一部簡略化や途絶えてしまった行事も少なくない。その状況は筆者の家庭にも当てはまる。そこで、本研究では、筆者の家庭で代々受け継がれてきた行事を対象に、年中行事の継承実態と課題について検討したので報告する。</p>
9.	<p>臨済宗の寺社と文化財デジタルアーカイブの構成についての研究 ～臨済宗天龍寺派デジタルアーカイブを中心に～ (16:36～16:48) 荒木 久貴 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>大学・図書館・博物館・文書館などが中心となって、古文書などの文献史料が全国的にデジタル化され、一部の研究者のみが活用していた文献史料の一般利用が進みつつある。しかしながら、文献史料のみを利用し、その他の関係する寺社や文化財などにつなげていく、総合的な活用が、あまり行われていない。私の専門分野である文献史学と岐阜女子大学大学院でご指導頂いたデジタルアーカイブを使って、資料の総合的な活用方法を提案する。知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという「知的創造サイクル」の手法により、史料と資料の将来的な活用につながるきっかけになればと考えている。</p>
10.	<p>アーカイブズとしての国立能楽堂所蔵資料群に関する一考察 —デジタルアーカイブ構築に向けて— (16:48～17:00) 鈴木 直子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>国立能楽堂図書閲覧室は、能楽関係の専門書等を収集対象とする専門図書館である。特筆すべきは、開場以来、主催する公演のすべてについて、映像、音声、写真による記録が作成され、上演台本等の公演関連資料とあわせて保存・活用されていることである。これらの資料群は、能楽研究のみならず、劇場の過去の活動を知るうえで意義を持つものと考えられる。本稿は、国立能楽堂所蔵の公演記録とその関連資料の現状を分析し、これらの資料群がアーカイブズと評価しうることを明らかにした上で、今後求められる視点、デジタルアーカイブへの展開について検討するものである。</p>
11.	<p>『萬根本丸本目録』と地域アーカイブ —信州川路地域を対象として— (17:00～17:12) 木村 涼 (岐阜女子大学)</p> <p>信州川路地域（現長野県飯田市）において、代々庄屋を務めていた関島家には、江戸時代に記された『嘉永戊元年申七月吉日 萬根本丸本目録』が所蔵されている。当資料は、江戸時代の芝居台帳や浄瑠璃本の目録である。これまで存在そのものの指摘はあるが、具体的な内容究明には至っていない。そこで、本報告では、当資料の性格及び内容に踏み込み、デジタル化の現状を改めて把握し、地域アーカイブの有効性について検討していく。</p>

※発表時間は10分、質疑応答は2分です。

デジタルアーカイブ研究会 研究会実施事務局（岐阜女子大学）
〒500-8813 岐阜市明徳町10番地 岐阜女子大学文化情報研究センター内
電話：058-267-5301（日本デジタル・アーキビスト資格認定機構）